

大学のポジショニング分析と組織的な研究支援体制構築

石本 太郎、栗原 翔吾、○新道 真代、森本 行人

筑波大学URA研究支援室



Times Higher Education (THE) やQuacquarelli Symonds (QS) が発表する世界大学ランキングに注目が集まっており、筑波大学でも、10年後の目標の一つとして「世界大学ランキング100位入り」を掲げています。この目標を達成するために、筑波大学URA研究支援室では、各ランキング公表機関が2013年に使用した採点ルールの調査、内容の精査を行い、現時点での筑波大学のポジショニング分析を行いました。また、これらの情報を参考に組織的な研究支援体制の構築に挑戦中です。

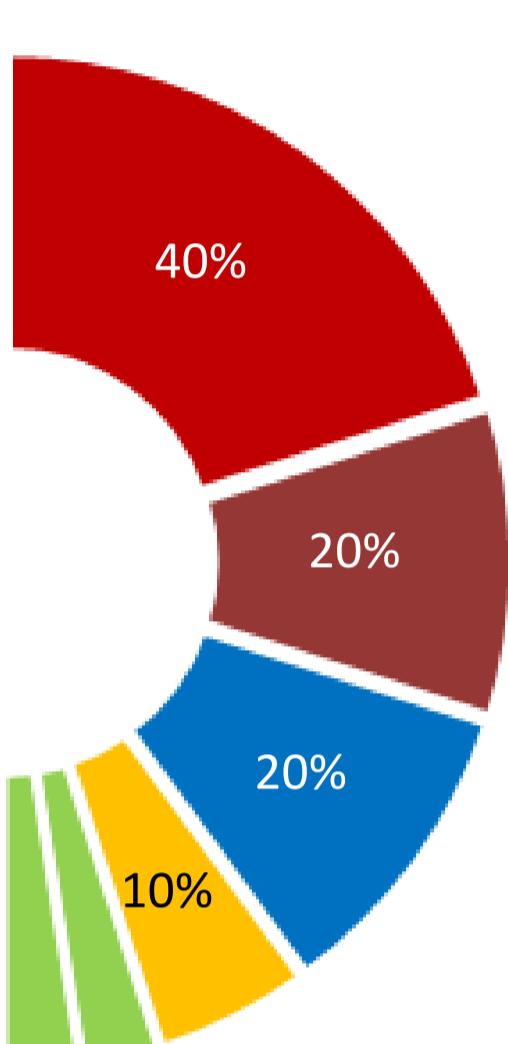
アンケートにご協力お願いします！：『筑波大学』と聞いて思い浮かべる研究分野にシールをお貼りください。

経済学・経営学	社会科学・一般
複合領域	化学
材料科学	物理化学
計算機・数学	工学
環境・地球科学	臨床医学
基礎生命科学	その他

大学ランキングの採点項目について



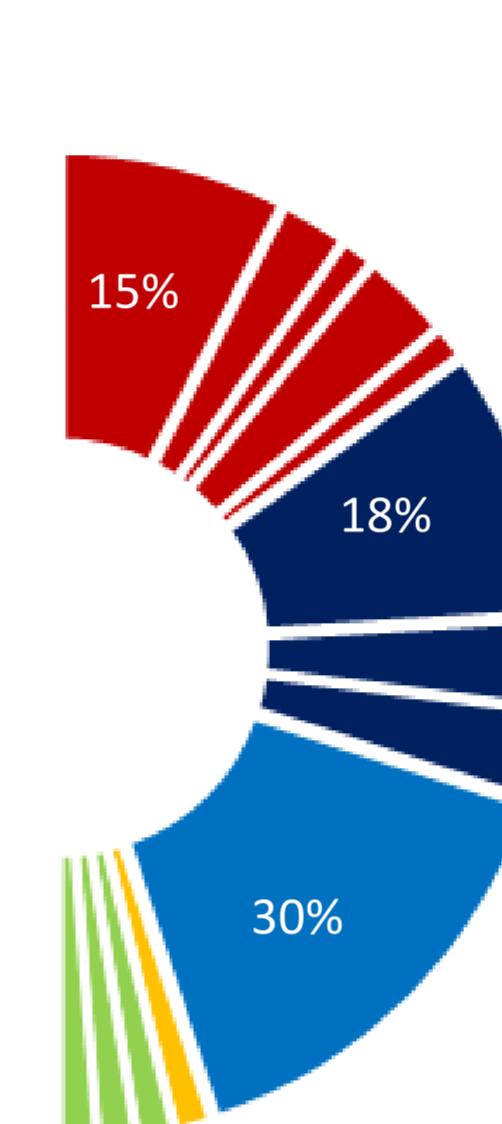
<http://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings>
2004年よりQuacquarelli Symonds社によって作成・公表されている。2009年までは、Times Higher Education と共に THE-QS World University Rankingsとして公表されていた。



研究者からの評判 (40%) QSグローバルアカデミック調査 (QS Global Academic Survey)から算出。2012年度の回答数は46,079
教員/学生比率 (20%) フルタイム当量に換算したときの教員・学生比率
教員あたりの被引用数 (20%) 過去5年間の被引用数を考慮 データソース: Scopus(エルセビア社) 自己引用は除外 フルタイム当量の人数によって正規化している
企業からの評判 (10%) QS グローバル企業調査 (QS Global Employer Survey) から算出。2012年度調査の回答数は 25,564
学生の国際性 (5%) 外国人学生の割合 教員の国際性 (5%) 外国人教員の割合



<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/>
2010年よりTimes Higher Education社により作成・公表されている。2010年からQS社との共同ランキング制作を辞め、2010年から独自に発表し始めた。

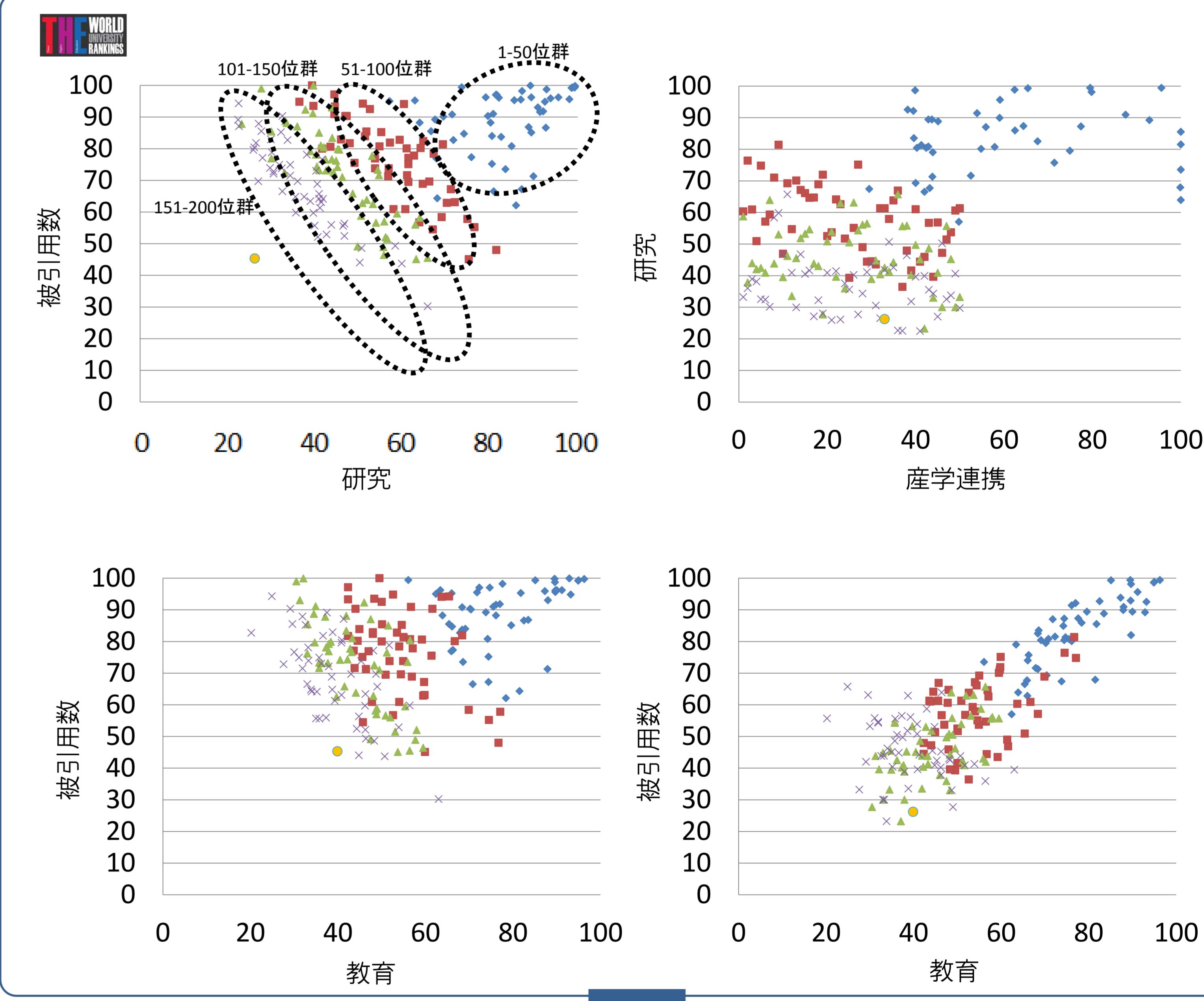
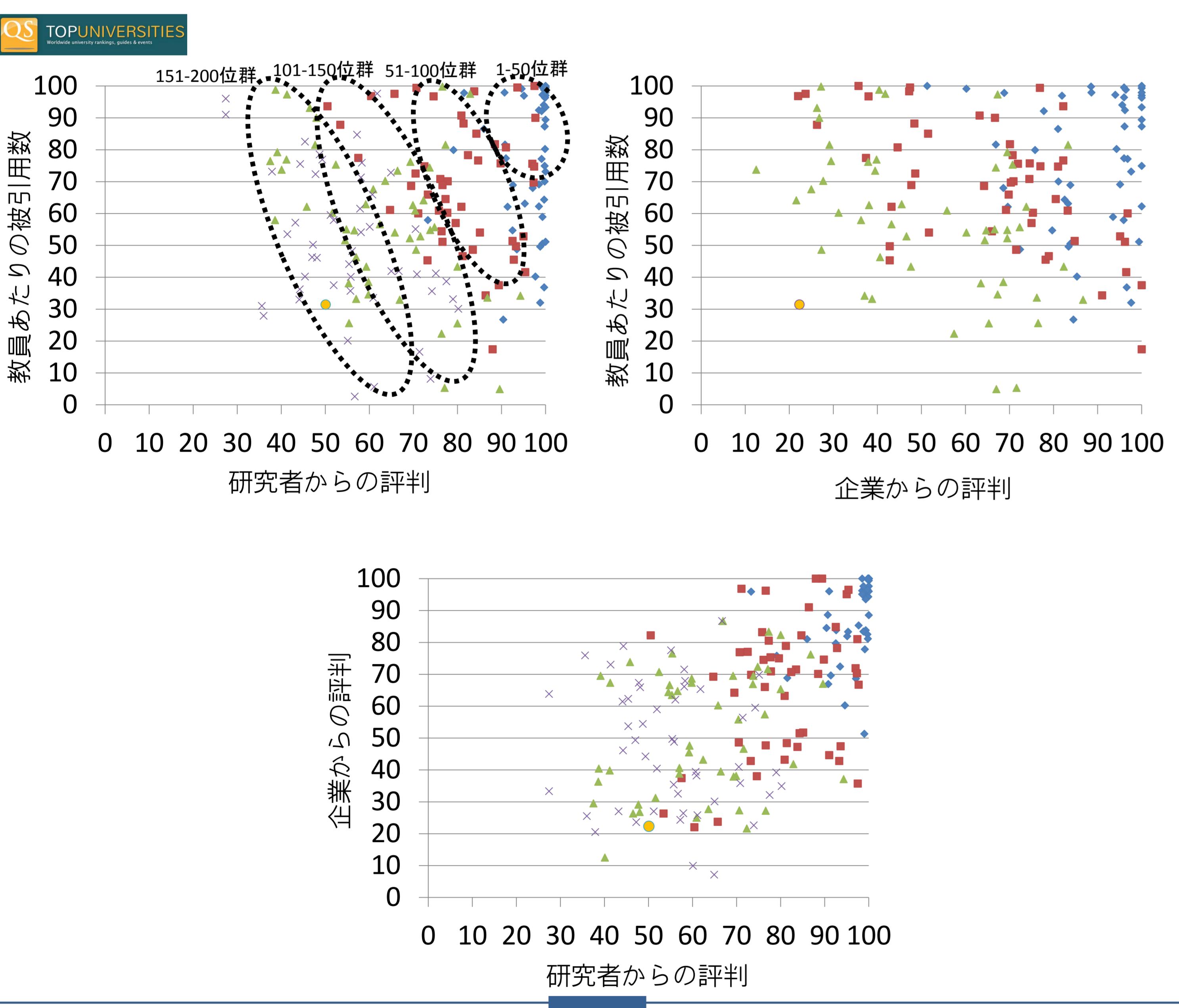


教育 (30%) 教育に関する研究者の評判調査 (15%) 学生一人当たりの教員数 (4.5%) 博士号授与数と学士号授与数の比率 (2.25%) (分野加重した)フルタイム当量の教員一人当たりの学位授与数 (6%) フルタイム当量教員一人当たりの収入 (2.25%)
研究 (30%) 研究者による研究評価(18%) (分野加重した)フルタイム当量の教員一人当たりの収入(6%) (分野加重した)フルタイム当量の教員一人当たりの論文数 (6%)
被引用数 (30%) (分野加重した)過去5年間の被引用数、データソース: web of science(トムソン・ロイター社)
産学連携 (2.5%) フルタイム当量の教員一人当たりの企業からの収入
国際性 (7.5%) 外国人学生比率 (2.5%) 外国人教員比率 (2.5%) (分野加重した)国際共同研究論文数の割合 (2.5%)

出典:エルセビア社提供資料より改変

大学ランキングの指標間の相関について

ランクイング順位群 ◆ 1-50 ◆ 51-100 ◆ 101-150 ◆ 151-200 ◆ U Tsukuba



- QSランキングについてはどの項目もほとんど相関がみられないが、研究者の評判が高い大学は、企業からの評判も高い傾向が認められる。
- 評判点数と被引用数は、1-50位 > 51-100位 > 101-150位 > 151-200位群の順に、低くなる傾向が認められる。一方、群内では負の相関があるよう見えます。

→研究成果の見せ方(広報活動)が評判、被引用数獲得につながるのではないか？

- THE世界大学ランキング1~200位まで、正の相関が見えるのは教育と研究のみ。
- Industry Incomeが50点以上の大学は、研究得点が80点以上ある。
- 研究と被引用数は、1-50位 > 51-100位 > 101-150位 > 151-200位群の順に、低くなる傾向が認められる。また、51-100位、101-150位、151-200位群は群内で負の相関があるよう見えます。

→重点的な研究活動の活性化が教育項目の得点に影響するのではないか？

組織的な研究支援体制の構築に向けて

重点的な研究力強化策

- 計算科学研究センターと生命領域学際研究センターを人事権のある世界トップレベル研究拠点に
- 世界的研究拠点を目指す3つの学術センターを設置

- 3つの重点取組：
- ①国際テニュア・トラック制度
 - ②一流外国人研究者の招聘
 - ③研究時間の質と量の保証

重点的な研究力強化策の例：

研究拠点形成

学内グラント活用による世界トップレベル拠点形成支援を行う。

戦略Sによる支援

研究センター

5年

学術センター

国際テニュア・トラック制度

国際テニュア・トラック制度